授業科目名・形態	病態治療学Ⅲ（精神科）　　演習	必修・選択の別	必修	単位数	2
担当者氏名	佐藤　泰治	実務経験の有無	有	開講期	2年前期
科目ナンバリング	N3-2010npmht				

【授業の主題】

日本精神看護技術協会では精神科看護を「精神科看護とは、精神的健康において援助を必要としている人々に対し、個人の尊重と権利擁護を基本理念として、専門的知識と技術を用い、自立の回復を通して、その人らしい生活が出来るように支援することである」と定義している(2004)。本講義では、人権に対する真摯な態度と専門的知識の初歩を学習し、各人の今後の看護活動の礎を築くことを目標とする。

【到達目標】

精神疾患の理解と基本的看護知識の習得。国家試験問題の傾向と対策。

【授業計画・内容】

総論

第 1 回　精神症状および状態像
第 2 回　精神科疾患の分類・診察と検査法
第 3 回　精神科医療の歴史
　　精神科治療（薬物療法・精神療法・その他の治療。リハを除く。）

各論

第 4 回　F0　症状性を含む器質性精神障害（認知症・狭義の器質性精神障害・症状精神病）
　　F1　精神作用物質使用による精神および行動の障害（依存・乱用）
第 5 回　F2　統合失調症
第 6 回　F3　気分障害（躁うつ病）
第 7 回　F4　神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害（神経症・パニック障害・強迫性障害・ヒステリー）
第 8 回　F6　成人の人格および行動の障害
第 9 回　F7～9　児童精神医学（精神遅滞・発達障害・行動および情緒の障害）
　　G4　てんかん
第10回　精神科リハビリテーション

（FX および G４は国際疾病分類である。）

【授業実施方法】

プリントを中心とした講義。てんかん発作の動画。補足資料。

【事前・事後学習】

・講義内容に関する事前学習を毎回 30 分以上行うこと。
・講義内容を踏まえ、復習を毎回 30 分以上行うこと。

【授業準備】

事前に配布されたプリントに目を通して、調べておくこと。

【主な関連する科目】

「精神看護学概論」「精神看護方法論Ⅰ」「精神看護方法論Ⅱ」

【教科書等】

なし

【参考文献】

無し。

【成績評価方法】

試験成績・出席・態度・授業中の発言内容など

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

精神科の臨床医として勤務。この経験を活かして実践的な授業にしたい。

【学生へのメッセージ】

ここで学ぶ事柄は全ての診療科で働く時の基礎となるものであり、精神的に飛躍を果たすべき発達段階にいる諸君にとっては自身に関わる内容でもある。一方、身体科と同様に、精神科看護を取り巻く現状は大きな変革期にある。このため授業で取り上げる内容はおのずと広範とならざるを得ない。授業においては真摯且つ積極的な態度で臨むことを期待する。